

事業所名

つむぎ高梁(放課後等デイサービス)

支援プログラム

作成日

6年

10月

1日

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|---|----|-----|------|----|---|----|----|
| 法人（事業所）理念 | | ～つながりの先にあるゆたかな未来の創造～ 『適切な支援でつむぎよこのいと、その支援が途切れることなくつむぐたてのいと、そんな支援の先にある ゆたかな社会の創造を目指します』 | | | | | | | |
| 支援方針 | | ①こどもの発達全般や障害の特性・行動の特性に応じた根拠ある説明可能な発達支援の提供 ②何がこどもの育ちや学びを制限する社会的なバリアとなっているのか、そしてそれを取り除くために必要な合理的配慮の提供 ③こどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や発達上のニーズについて共通理解を持つことができる家族支援の提供 ④インクルーシブ保育・教育の観点を常に持った適切な指導と必要な支援の提供 ⑤地域の中で切れ目のない一貫した支援を提供していくために新たな支援や仕組みを柔軟に創造する | | | | | | | |
| 営業時間 | | 8時 | 0分 | 18時 | 0分 | まで | 送迎実施の有無 | あり | なし |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | <ul style="list-style-type: none"> 排泄、着脱、みだしなみなど生活に必要な基本的技能を獲得できるよう、個々の発達段階に応じて適切な支援をする。 障害の特性に配慮し、時間や空間を本人にわかりやすく構造化した中で、適応行動が促進されるように支援する。 | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | <ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じ、粗大運動や微細運動のスキルを獲得できるようにする、または、協調性運動障害への支援。 視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚等の感覚を十分に活用できるよう、活動等を通して支援する。 感覚特性（過敏さや鈍麻さ）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。 | | | | | | | |
| | 認知・行動 | <ul style="list-style-type: none"> 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、これらの感覚から情報が適切に取り入れることができる支援を行う。 個々の認知の特性を理解し、入力した情報を適切に処理できるよう支援する。 取り入れた情報を過去の経験と照合し、環境や状況を把握・理解できるようにし、的確な判断や行動につなげることができるよう支援を行う。 | | | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> 障害の種別や程度、興味関心等に応じて、言葉だけでなく、表情や身振り、コミュニケーションカードなどを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションの基礎力を養う。 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、相手と同じものに注意を向け、その行動や意図を理解・推測するといった共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を理解して表出すること、または、具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけることで、自発的な発声を促し、体系的な言語を身につけることができるように支援する。 障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 | | | | | | | |
| | 人間関係社会性 | <ul style="list-style-type: none"> 自分のできることや苦手なことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 集団に参加するための手順やルールを理解し、こどもの興味のある遊びや集団活動に参加できるよう支援する。また一緒に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。 | | | | | | | |
| 家族支援 | <ul style="list-style-type: none"> ペアレントトレーニング(全6回1クール) 療育参観週間(毎月1週間) みんなの食堂たまりば(月1回土曜日) 事業所内相談支援(3か月～6か月に1度、もしくは随時) 不登校の子どもを持つ保護者同士の座談会 子育て応援講座(全2回) | | | | 移行支援 | | <ul style="list-style-type: none"> 引継ぎシートの作成のもと、移行支援会議に参加する。 本児の行動特性から考えられる配慮点など必要な情報を引き継ぐ。 必要に応じてフォロー会議や訪問等を実施する。 | | |

| | | | |
|------------------|--|----------------|---|
| <p>地域支援・地域連携</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・利用児が通っている園や学校の先生との会議による情報共有や訪問見学により協働的な支援を行う。 ・保健師、児童相談所など多職種連携支援。 ・自立支援協議会への参画により地域資源とのつながり ・巡回相談や保護者との発達相談の実施 ・講演会の開催 | <p>職員の質の向上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパス制度に基づいた人材育成。 ・岡山県社会福祉協議会階層別研修への参加。 ・法人内学習会（事例検討、復命研修、障害特性に関する専門研修など） ・業務に必要な外部研修への派遣（強度行動障害など） ・療育スキルアップ事業(川崎医療福祉大学諏訪利明先生講師) ・巡回指導の実施 ・法人内公開療育 ・療育実践発表会 |
| <p>主な行事等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加 | | |